

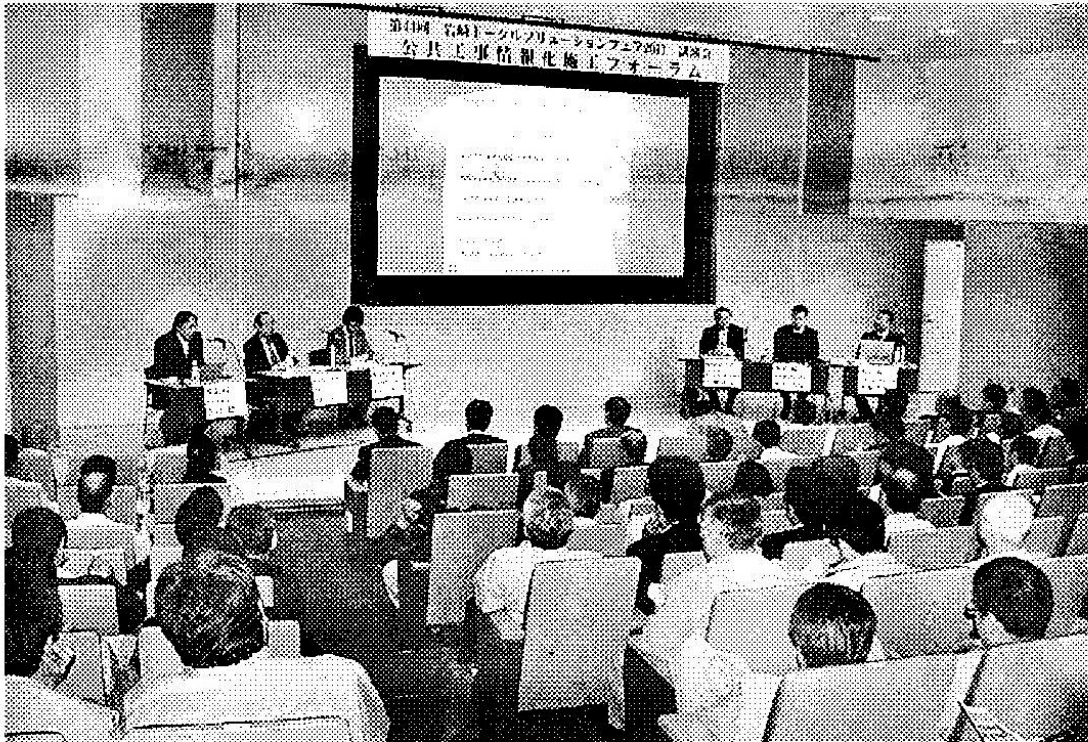
岩崎トータルソリューションフェアが開幕

最先端の情報を提供

岩崎（本社・札幌）の第44回岩崎トータルソリューションフェア2011が14日、札幌コンベンションセンターで始まった。最先端の建設現場をバックアップする製品や技術を展示。公共工事情報化施工フォーラムや各セミナーも関心を集め

た。15日まで2日間の来場者は3000人を見込んでいる。

インターネットなどの情報伝達手段が急速に普及し、建設現場の施工体



道内で本格普及が進む情報化施工が話題の中心となった

制が様変わりする中、新しい建設生産システムに対応できる商品や情報を提供している。

展示会場ではメーカーなど57社が自社製品を紹介。情報化施工のイメージ映像や、レーザー測距器などの実演を見せ、ICTを搭載した精密農業機械も参考出展した。

各企業などが企画するセミナーは14日に1講座、15日には12講座を予定。来場者はそれぞれ興味ある会場に足を運んだ。

公共工事情報化施工フォーラムでは、岩崎の古口聡社長と砂子組（本社・奈井江）の熊谷一男常務が基調講演。古口社長

は自社の情報化施工が「技術的な課題をクリアした。価格は高いが従来工法と比較し、数倍の短縮効果が得られる」と強調した。熊谷常務は「情報化施工で企画、設計から施工、維持管理までの一貫体制が確立できる。建設生産システムは劇的に変わる」と工程管理とのハイブリッド化を提案した。

パネルディスカッションでは、パネリストを務めた阿座上洋吉地域経済研究所理事長が「原価計算と工程管理、情報化施工は深い関係にある」と話題提供し、効率的な建設生産システムについて議論した。